

# 【JGFAアンケートの集計結果発表】(横浜分・2013年3月)

JGFAでは、2013年2月1-3日に開催された「大阪フィッシングショー」および同年3月22-24日に開催された「横浜フィッシングショー」でJGFAに関するアンケートを実施いたしました。これは、【JGFA】という団体とその事業がどの程度釣り人の間に理解されているのかを探るために行われたものです。

まとめ:JGFA

●アンケート回収総数(横浜分) : 357件  
(3/22-24の3日間・JGFAブースに来た人を対象)

## 【結果】

【設問1】JGFAを知っていましたか

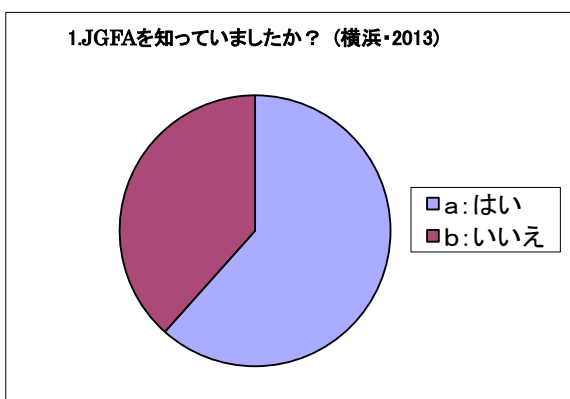
a : はい

61. 6% (220件/357件)

b : いいえ

38. 4% (137件/357件)

★JGFAを「知っている」と答えた人が6.2割だった。(大阪:5.5割)



【設問2】JGFAのホームページを見たことがありますか？

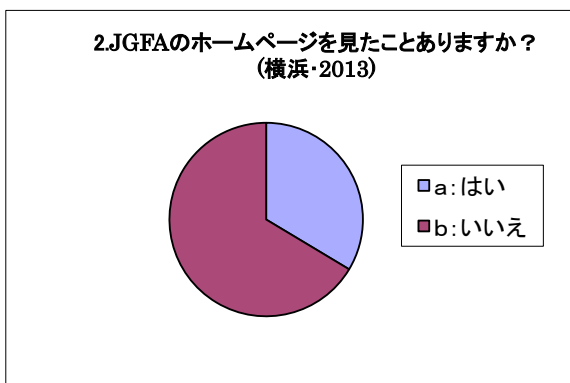
a : はい

33. 6% (120件/357件)

b : いいえ

66. 4% (237件/357件)

★JGFAのホームページを見たことのある人は、3.4割。(大阪:2.6割)



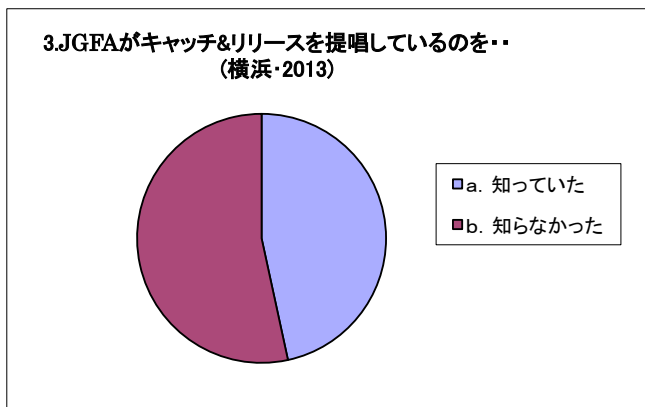
【設問3】JGFAが【キャッチ&リリース】を提唱していることを知っていますか？

- a. 知っていた
- b. 知らなかった

46.6% (166件/356件)

53.4% (190件/356件)

★JGFAがキャッチ&リリースを提唱していることを知っていた人は、4.7割。(大阪:4.5割)



【設問4】【キャッチ&リリース】とはどのような意味か、ご存知ですか？

- a. 釣った魚を生きたまま、無事時に元の水域に戻すこと
- b. 釣った魚の中で重要(貴重)な魚だけを元の水域に戻すこと
- c. 成魚、稚魚を問わず、増殖のために新たな魚を水域へ放流すること
- d. 魚の成長や回遊を知るために魚に印をつけて逃がすこと
- e. よく知らない

76.8% (267件/348件)

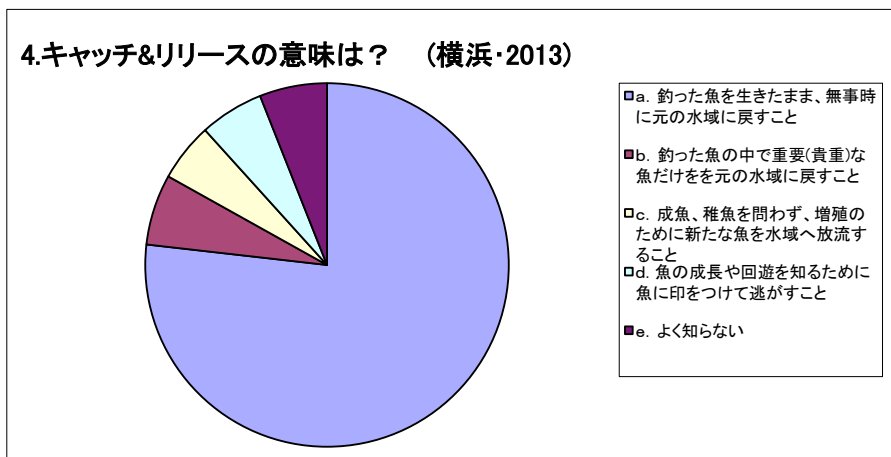
6.3% (22件/348件)

5.2% (18件/348件)

5.7% (20件/348件)

6.0% (21件/348件)

★正解は【a】。キャッチ&リリースの意味を知っている人は7.7割と大多数の人が知っていた。(大阪:8割)

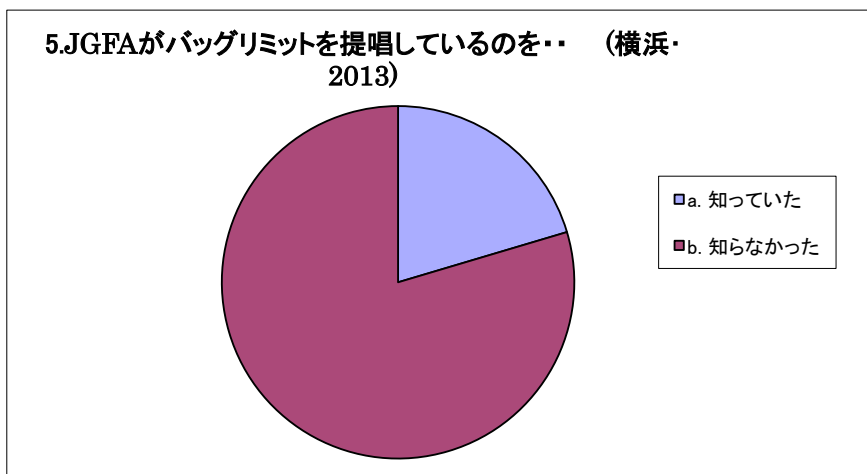


【設問5】JGFAが【バッグリミット】を提唱していることを知っていますか？

- a. 知っていた
- b. 知らなかった

20.4% (67件/329件)  
79.6% (262件/329件)

★JGFAがバッグリミットを提唱していることを知っていた人は、わずか2割。(大阪:1.5割)



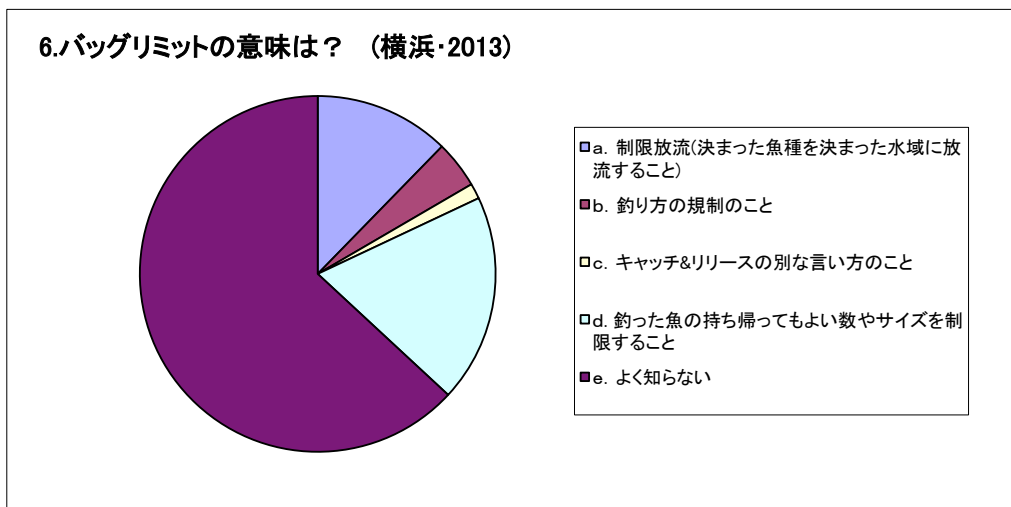
【設問6】【バッグリミット】とはどのような意味か、ご存知ですか？

- a. 制限放流(決まった魚種を決まった水域に放流すること)
- b. 釣り方の規制のこと
- c. キャッチ&リリースの別な言い方のこと
- d. 釣った魚の持ち帰ってもよい数やサイズを制限すること
- e. よく知らない

12.3% (43件/350件)  
4.3% (15件/350件)  
1.4% (5件/350件)  
18.9% (66件/350件)  
63.1% (221件/350件)

★正解は【d】。バッグリミットの意味を正しく知っている人は1.9割。残り約8.1割が知らないことになる。

(大阪:正しく知っているが1.6割、残り8.4割が正しい意味を知らない)



【今回のアンケート結果(横浜分) のまとめ】

- (1) JGFAの認知度: アンケートに答えたうち、6.2割の人がJGFAを知っていると回答。(大阪: 5.5割)
- (2) JGFAのホームページを見たことがあるとしたのは3.4割。(大阪: 2.6割)
- (3) 「JGFAがキャッチ&リリースを提唱していることを知っていた」としたのは4.7割。(大阪: 4.5割)
- (4) キャッチ&リリースの意味を知っている人は7.7割と大多数の人が知っていた。(大阪: 8割)
- (5) JGFAがバグリミットを提唱していることを知っていた人は、わずか2割。(大阪: 1.5割)  
(2009年横浜: 2割弱が知っていると回答。つまり、2009年時点と変わらず)
- (6) バグリミットの意味を正しく知っている人は1.9割と少ない。残り約8割が知らないことになる。  
(大阪: 知っている1.6割) (2009年横浜: 正解は1.9割であった。つまり、2009年時点と変わらず)

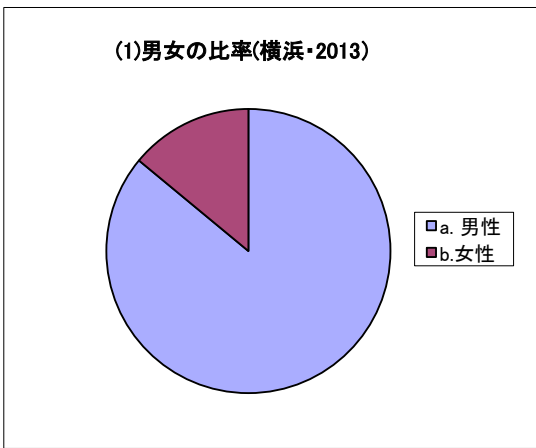
以上の結果、JGFAに対する認知度、キャッチ & リリースやバグリミットに関する認識は、2009年当時とさほど変化していないように感じられた。

【参考(横浜・2013)】

(1) 男女比

- a. 男性 86% (307人/357人)
- b. 女性 14% (50人/357人)

★男性が8.6割と圧倒的(2013年大阪: 男性9.6割とさらに男性の比率高い。)

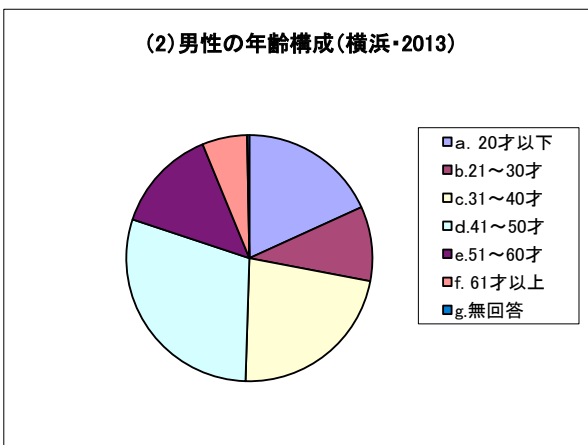


(2) 男性の年齢構成

- a. 20才以下 18.2% (56人/307人)
- b. 21～30才 9.8% (30人/307人)
- c. 31～40才 22.5% (69人/307人)
- d. 41～50才 29.6% (91人/307人)
- e. 51～60才 13.7% (42人/307人)
- f. 61才以上 5.9% (18人/307人)
- g. 無回答 0.3% (1人/307人)

★30～50才で6.2割を占め、20才以下が1.8割、50才代以上で2割であった。

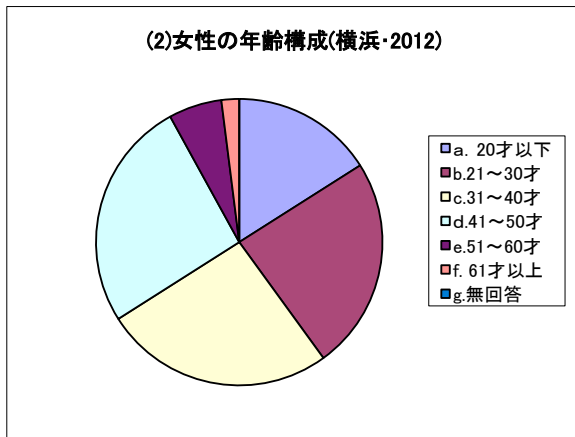
(2013年大阪: 30～50才6割、20才以下1.6割、50才代以上1.6割)



(2)女性の年齢構成

a. 20才以下	16.0% (8人/50人)
b.21～30才	24.0% (12人/50人)
c.31～40才	26.0% (13人/50人)
d.41～50才	26.0% (13人/50人)
e.51～60才	6.0% (3人/50人)
f. 61才以上	2.0% (1人/50人)
g.無回答	

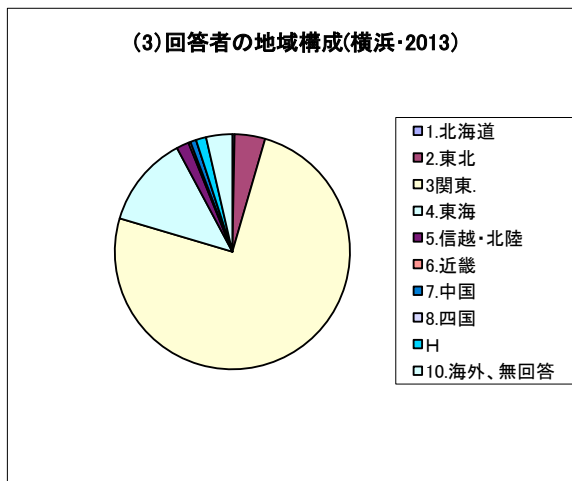
★20代、30代、40代でそれぞれ約2.5割、20才以下で1.6割。男性に比べ50才以上が0.8割と少ない。  
 (2013年大阪:20才以下1割、20代1割と横浜に比べ少ない。)



(3)回答者の地域構成

1.北海道	0.3%
2.東北	4.2%
3.関東	75.0%
4.東海	12.6%
5.信越・北陸	1.7%
6.近畿	0.3%
7.中国	0.8%
8.四国	0.0%
H	1.4%
10.海外、無回答	3.6%

★関東だけで7.5割と圧倒的で、他地域では東海の12.6%が多いほう。  
 (大阪:近畿7.5割、東海10.7%、中国6.7%)



参考(2009年の横浜・総評)

- (1) バッグリミットという言葉は、7.5割の釣り人が知らない。フィッシングショーには都会の釣り人が多く、しかも、釣りに関心のある人が多いと思われるので、実際はバッグリミットという言葉を知っている人の割合ははさらに低くなるだろう。
- (2) バッグリミットという言葉の意味を知っていると答えた人でも、本当の意味がわかっているのは1.9割に過ぎず、「バッグ(袋)」を「バック(もどす)」と勘違いしている人:1割強、「バッグリミットに達したらその日はもう釣りをやめなければいけない」と勘違いしている人が7割近かった。
- (3) 「JGFAがバッグリミットを提唱している」ことを「知っている」と答えたのは、この言葉を知っているという人でも5.7割。全体では、2.8割の人が「JGFAが提唱している」と答えているが、多くはこのアンケートではじめて知ったというのが本当のところだろう。
- (4) 「日本の海釣りにはバッグリミットの制度がないという現状をどう思うか」については、この言葉を知っている、知らないにかかわらず、「将来はバッグリミットが必要」と回答した人は9割を超えた。
- (5) 「バッグリミットがないままだと10年後はますます釣れなくなる。どうしたらいい？」の問いに対しては、「釣れなくなったらいやだから、9割弱の人が「バッグリミットを実践する」と回答した。
- (6) 日本の海釣りでは釣魚(ゲームフィッシュ)の資源を確保するためにはどんな施策が必要かという問いに、「バッグリミット」を1位にあげた人は、4~5割であった。2番目は禁漁期で2~3割、3番目が稚魚放流で2割弱、4番目が禁漁区で1割前後となった。

この結果、「バッグリミット」や「JGFAでバッグリミットを提唱」していることはまだまだ知られていないが、ちゃんとその意味と必要性を訴えれば、多くの釣り人はその必要性を理解すると思われる。釣り人はもちろん、マスコミ、行政、漁場関係者にこのことを広く伝え、未来に夢のある釣りや釣り場を残していこうではないか。